

宮城県総合教育センター一報 第7号

発行日 平成29年 2月22日

発行者 宮城県総合教育センター 所長 小林 裕介

〒981-1217 名取市美田園2丁目1番4号 ☎: 022-784-3541



みやぎの将来を担う子どもたちのために

たくさんの先生方に受講いただき ありがとうございました

今年度当センターが開設しました研修会は全部で117講座です。県内各幼稚園、学校等からたくさんの先生方に受講いただきました。先生方からは、概ねよい評価をいただいておりますが、反省点は来年度の研修に反映していきたいと思えます。ぜひ研修されましたことを宮城の子どもたちのために生かしていただければと思います。



副所長（兼研究研修部長） 岩間 孝一

来年度開設の研修会も御期待ください ＜申込み〆切は4月18日です＞

先生方が、今、子どもたちのためにどんな研修を必要としているのか、そのニーズに応えるべく、次年度も盛りだくさんの興味深い研修を用意しました。申込みの〆切は、新年度に入っすぐとなります。今年度の内にガイドブックを参考に、先生方のライフステージに合わせた研修をお選びいただければと思います。研修は、新しいものを身に付けるだけでなく、日頃の指導を見直す良い機会ともなります。当センターの研修を大いに御活用ください。来年度は、仙台市教育センターの研修も一部受講可能となります。併せて御活用いただければと思います。たくさんの先生方の受講をお待ちしております。

科学巡回指導訪問



昭和43年の発足以来49年間継続している事業です。

訪問した学校は、のべ993校にのぼり、99,434名の児童、9,768名の教員が参加しています。

今年度は、県内16校の訪問を予定していましたが、台風の影響で8月30日(火)が中止になり、15校の訪問となりました。

午前中は、児童対象の「デモンストレーション」と「理科教室」を行っています。「デモンストレーション」は、主に全校児童を対象に、体育館で液体窒素や巨大空気砲、校庭で熱気球やペットボトルロケットの実験を行っています。「理科教室」は、クラス単位に分かれて「実験教室」「観察教室」「ものづくり教室」等を行っています。「実験教室」は、高吸水性ポリマーや大気圧、木炭電池などの実験が人気です。「観察教室」は、双眼実体顕微鏡による観察、「ものづくり教室」は、紙飛行機や風車作りを行うことが多いです。

午後は、教員対象研修会を行っています。理科教育の現状に関する講義や模擬授業、理科教育相談、教材・教具の紹介などを行っています。

平成29年度は50周年を迎え、のべ1,000校、参加児童100,000名、参加教員10,000名を超える見込みです。訪問校近隣の小・中学校には、午後の教員対象研修会への参加を呼びかけています。是非ご参加ください。

発達支援班からのお知らせ

当班で実施しております教育相談関係事業につきましては、来年度も今年度とほぼ同様の内容・日程で実施する予定です。来年度の実施に関する内容及び日程の詳細につきましては、今年度末に「平成29年度発達支援教育相談実施要項」を各学校等へ送付させていただく予定です。お手元に届きましたら御確認ください。

なお、来年度の来所教育相談（一般・専門）及び定期巡回教育相談（県内9会場）の申込につきましては、平成29年4月3日(月)午前9時から電話での受付を開始します。保護者・学校等どちらからでも申し込みます。

特別支援教育班からのお知らせ

当班では、特別支援教育に関する情報及び最近の動向、障害のある子供の障害種に応じた実態把握の方法やそれに基づく指導方法などについて、講義、演習、研究協議などによる研修会を実施しています。

また、専門研修の中から、特別支援教育における今日的課題に関する講義等を該当研修会受講者以外の教育関係者にも開放する「開放講義」も設定しております。

平成29年度は、授業づくり研修会で「通級による指導コース」を設定したり、受講者のニーズの多い研修会の定員増をしたりとさらに充実した研修会をめざしています。

平成28年度長期研修 専門研究員グループ研究



業改善・ 学力向上グループ

国語科，算数・数学科における児童生徒の学力向上を目指す授業改善 －アクティブ・ラーニングの視点に立った単元構想図を活用した授業づくりを通して－

「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す授業改善が求められています。この学びは、単元や題材のまとまりの中で実現を目指すものであることから、本研究では「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の視点に立って、単元を見通すための単元構想図を作成しました。また、「授業アイデア例」として、単元構想図を活用した授業づくりの工夫を提案しています。



科教育グループ

児童が根拠や理由を示しながら自分の考えを説明できる理科授業 －アクティブ・ラーニングの視点による授業づくりを通して－

中教審の審議において「判断の根拠や理由を明確に示しながら自分の考えを述べること」が我が国の子供たちの課題として指摘されています。また、全国学力・学習状況調査小学校理科の結果から、本県の小学生は「理由を書くこと」に課題があることが分かりました。そこで、本研究ではアクティブ・ラーニングの視点による授業づくりを通して、児童が根拠や理由を示しながら自分の考えを説明できる理科授業を目指します。



徒指導・ 教育相談 ① グループ

不登校傾向がある児童生徒の対応に関する研究 －「こころ満タンサポートガイド」の作成と提案を通して－

不登校は、本県の喫緊の教育課題です。不登校傾向がある児童生徒に対しては、安心感を与え、認められる体験や楽しい体験を増やし、元気や意欲の素となる心のエネルギーを満たすことが、特に大切です。本研究は、基本的な対応の理解と児童生徒の持っている良さに気付いた上で、個々の心の状態を見取り、その状態に即した心のエネルギーの満たし方を示す「こころ満タンサポートガイド」を作成しました。この支援ガイドの活用を提案します。



徒指導・ 教育相談 ② グループ

共通理解を基に取り組み，SNSに関する情報モラル教育 －「みやぎSNSナビゲーション」の開発と活用の提言を通して－

近年、児童生徒の多くがスマートフォンを所有しSNSを利用しています。その結果、SNSを介した生徒指導上の問題が増えています。本研究では、教員がSNSの仕組みや特性について共通理解を図ることを目的とした校内研修ツール「みやぎSNSナビゲーション」を開発し、その活用を提言します。県内各校の実態や時代のニーズに対応したSNSに関する情報モラル教育に計画的・組織的に取り組むことを目指します。



別支援教育グループ

高等学校における発達障害等困難のある生徒への個に応じた支援の推進 －生徒の自己理解を促す一助となる「アシストパック」の提案を通して－

共生社会の実現に向け、高等学校における特別支援教育を更に充実させることが求められています。教師は、発達障害等困難のある生徒が、自立と社会参加へ向けて自分の力を発揮しながら、苦手なことを改善・軽減する方法を身に付けることができるように、支援をしていく必要があります。そこで、本研究では生徒が自分の得意・得意なことや特性に気づき、困難を克服する一助となる「アシストパック」を提案します。

専門研究員及び長期研修員の成果は、3月13日（月）に総合教育センターWebサイトの「専門研究・長期研修成果」のページ（<http://www.edu-c.pref.miyagi.jp/study/>）に掲載する予定です。

各学校での効果的な活用を願っています。

受付開始までもうしばらくお待ちください 平成29年度 土曜講座

毎年、好評をいただいている土曜講座ですが、平成29年度は下表のとおり開講します。

なお、申込の受付は、4月からの予定です。ただし、講座によっては、申込期間を設定する場合があります。詳細が決定次第、総合教育センターWebページでお知らせしますので、ご確認ください。

月日	講座名	内容（概要）	定員	受講対象者				開講時間
				教職員	児童生徒	保護者	一般県民等	
7/8	特別支援教育公開講座①	講演「きょうだいとして生きて～自閉症の弟から教えられたこと～」 講師 エッセイスト 島田 律子 氏	200人	○	○	○	○	午後
7/22	夏休み親子理科教室	①デモンストレーション ②身近な材料を使った実験教室 ③原理や法則に触れるものづくり教室	20組		○	○		午前
8/5	プログラミングを はじめてみよう ※同内容の講座を午前と午後が開講	①プログラミング言語Scratch(スクラッチ)を使ってプログラミングを体験する。 ②Scratchを用いてロボット模型の制御を体験する。	午前・午後 各20人	○	○	○	○	午前・午後
11/18	特別支援教育公開講座② ～ふるさと宮城の教育講演会～	講演「つらいことや壁から逃げずに立ち向かう～パラリンピックから得たもの～」 講師 ウィルチェアラグビー日本代表 庄子 健 氏	200人	○	○	○	○	午後
11/25	子育てが楽しくなる コミュニケーション講座	①子育てに役立つ「学ぶ土台づくり」についての情報を紹介する。 ②親も子も笑顔になれるコミュニケーションを、演習を交えながら学ぶ。	100人	○		○	○	午後